



小松島市総合学術調査の報告にあたって

徳島県立図書館長 小林 敬 治

このたび小松島市の総合学術調査結果がまとまり、その報告書として「阿波学会紀要 64号」を出版するはこびとなりました。

総合学術調査は、徳島県立図書館と阿波学会の共催事業であり、毎年1市町村をあらゆる分野から総合的に調査しています。昭和25年に徳島県立図書館と沼田生体医学研究所が共催で行った「祖谷社会総合学術調査」がはじまりとされており、昭和29年には、県内18学術団体の連絡協議会として阿波学会が結成され、同会としての第1回調査が行われました。平成24年に東みよし町（旧三加茂町）の調査を完了した後は、2巡目の調査に入っています。

小松島市の前回調査は、昭和43年に行われており、翌年に発行された「郷土研究発表会紀要 第14号」を開くと、医学班、生薬班、博物班、地学班、地理学班、言語学班、史学班、郷土班、教育社会学班が調査を行っています。巻頭には、にぎわう小松島港、みかん畑、花火大会、金長大明神、立江寺などの写真が掲載され、当時の小松島市の姿を垣間見ることができます。今回の調査は、令和3年度から4年度にかけて、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、11の調査班によって行われました。同市においては、前回調査から54年の長きにわたる月日の経過後に2回目の調査が実施されたところですが、この間、同市にはどのような変化があったのでしょうか。過去に刊行された紀要は、徳島県立図書館で保存・貸出を行っているほか、デジタル化を行い、ホームページ上で公開しています。この機会にぜひ、新旧二つの小松島市の紀要を御覧ください。

結びとして今回の調査に当たり、格別の御理解と御協力をいただきました中山俊雄小松島市長をはじめ同市教育委員会の関係者の方々、御協力をいただきました地域の方々、また、コロナ禍の中厳しい制限を設けて調査研究を行って下さった平井松午阿波学会会長をはじめ同会の皆様に、紙面をお借りいたしました心より厚くお礼申し上げます、発刊に当たっての御挨拶とさせていただきます。